論文要旨

神奈川県三浦市における観光活性化戦略の分析

今泉　智裕（法学部政治学科 4 年）

指導教員：長田　進

本研究は、神奈川県三浦市において、どのようなアクターがどのような関係性で連携し、観光活性化が行われているかについて、シティセールスという新しい取り組みの効用を検討したり、マーケティングと行政学双方の視点からアプローチを取ることを通じて、考察を行うことを目的としている。

これまでの観光活性化や地域活性化の取り組みを分析する手法としては、マーケティング論の視点に立つものが一般的であった。しかし近年、神奈川県三浦市のシティセールス・プロモーションのように自治体が主導する形の観光活性化が増えている。民間企業とは性質を異にする自治体による活動の分析は、マーケティングの側面からのみでは不十分であるため、自治体として適切な取り組みが行えているかどうかを分析する手法として、行政学の理論を援用した。

まず、今回の研究に用いる手法として、マーケティング的側面からは SWOT 分析を用いた観光地のマネジメント法を、行政学的側面からはニューパブリックマネジメント（民間的行政経営）および行政ビジネス論を選んだ。次に、数十年来の下落傾向にあった三浦市の観光客数が、平成 13 年の第四次三浦市総合計画の策定とそれに伴う観光政策の転換をきっかけとして回復傾向にあることを確認し、三浦市の取り入れた新たな観光活性化戦略である「シティセールス・プロモーション」が主な要因になっているという仮説を立てた。そして、資料や聞き取りによる情報収集を経て三浦市の観光活性化戦略に関わるアクターを図式化したところ、シティセールスの実行を担う三浦市営業開発課の存在が明確に好影響を及ぼしていることがわかった。さらにマーケティングと行政学の側面から取り組みを検証したところ、概ね効率の良い戦略が取られていることがわかった。

以下、本論の構成について述べる。第 2 章では観光活性化戦略の分析に際してこれまでにどのような手法が用いられてきたかを検証する。第 3 章では三浦市を例として取り上げた先行研究を紹介した上で三浦市を事例とすることの妥当性を確認したのち、本論で用いる研究手法を提示する。第 4 章では三浦市について観光業の概況を中心に説明し、主要なアクターを整理する。その上で、第 5 章で聞き取り調査を踏まえた現状解析を行い、その有効性について分析・考察を行うものとする。